

資料の情報と釈文

一・江戸から東京へ

展示資料…江戸ヲ東京ト称ス

請求番号…太 00001100

デジタルアーカイブ URL : <https://www.digital.archives.go.jp/img/1342224>

釈文の凡例については、[こちら](#)をご覧ください。

【釈文】

元年七月十七日

江戸ヲ東京ト称ス

詔書

朕、今万機ヲ親裁シ億兆ヲ綏撫ス。江戸ハ東国第一ノ大鎮、四方輻湊ノ地、宜シク親臨以テ其政ヲ視ルヘシ。因テ自今江戸ヲ称シテ東京トセン。是、朕ノ海内一家東西同視スル所以ナリ。衆庶、此意ヲ体セヨ。

辰七月

副書

慶長年間幕府ヲ江戸ニ開キシヨリ、府下日々繁栄ニ趣候ハ、全ク天下ノ勢、斯ニ帰シ、貨財随テ聚リ候事ニ候。然ルニ、今度幕府ヲ被廢候ニ付テハ、府下億万人ノ口、頓ニ活計ニ苦ミ候者モ可有之哉ト、不便ニ被思食候処、近来世界各国通信ノ時態ニ相成候テハ、専ラ全国ノ力ヲ平均シ、皇国御保護ノ目途不被為立候テハ、不相叶御事ニ付、屢東西御巡幸、万民ノ疾苦ヲモ被為問度、深キ叡慮ヲ以テ、御詔文ノ旨被仰出候。孰レモ篤ト御趣意ヲ奉戴、徒ニ奢靡ノ風俗ニ慣^習レ、再ヒ前日ノ繁栄ニ立戻リ候ヲ希望シ、一家一身ノ覚悟不致候テハ、遂ニ活計ヲ失ヒ候事ニ付、向後銘々相当ノ職業ヲ営ミ、諸品精巧物産盛ニ成行キ、自然永久ノ繁栄ヲ不失様、格段ノ心懸可為肝要事。 元年七月^{市政 東京}

烏丸宰相直達

臣光徳不速ニシテ、東京府ニ知事タルヘキノ詔命ヲ奉セリ。恭ク天成ヲ尊戴シ、勉メテ兆民ニ牧タリ。皇上

親シク兆民ヲ子育シ、上下一致旧来ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基クヲ要トスルノ大訓ヲ敬承シテ、戦々競々深く兆民ノ寧カラサルヲ懼レ、心ヲ天日ニ失ヒ、民ト休戚ヲ俱ニス。幸ヒニ皇上御親臨ノ明詔ヲ仰体シテ、綱紀ノ常ヲ正フシ、陳言ノ路ヲ明ニシ、撰挙ノ法ヲ公ニトリ、濫用ノ失ヲ戒シム。総テ輿論公議ニ基キ、衆庶冤抑ノ情ヲツクシ、上下壅閉ナキヲ体シ、吏ノ不平、政ノ不宜、民ノ不寧、悉ク其心ヲ陳ヘ、隠ス所アルコトナカレ。敢テ進言ノ真ヲ求メ、余ノ不逮ヲ輔翼スルハ、府内ヲ安穩ニスル所以ナリ。宜シク此意ヲ俱ニスルヲ要トス。

元年八月二十一日

市政
東京

右ノ通、被仰出候間、御趣意ノ目途一同相心得、府内在住士民ノ無差別、或ハ他国ヨリ罷越、當時在府ノ者ニ至ル迄、存附候儀有之候ハバ、御一新ノ折柄、総テ無忌諱可申出。既ニ天皇御臨幸、詔書ヲ以テ被仰出候御儀ニモ有之。慶長以来天下ノ勢、斯ニ帰シ、四方輻輳ノ地ニ候処、可被用ノ人才、此際ニ臨ミ、草奔ニ隱遁候テ、一身ノ安逸ヲ偷ミ候儀ハ、不都合ノ次第ニ付、其人才ニ依テハ、不次御採用可相成候間、推挙ノ儀等聊不苦候、前書ノ廉々建白ノ儀ハ、昌平学校ニテ取扱ヒ、夫々へ進達可致候間、右ノ趣、未々迄無洩様可相達候事。

元年八月二十一日

市政
東京